「造血幹細胞疾患の発症モデル
～発作性夜間ヘモグロビン尿症の分子病態」

◆講師：中熊　秀喜　氏（和歌山県立医科大学医学部　血液内科学講座　教授）

Prof. Hideki Nakakuma
(Department of Hematology/Oncology, Wakayama Medical University)

◆日時：平成２５年１１月１３日（水）１７：３０～

November 13th (WED), 2013 from 17:30

◆場所：医学教育図書棟３階　第２講義室

Lecture Room 2, Medical Education & Library Building 3F.

発作性夜間ヘモグロビン尿症（PNH）は 1866 年から知られる造血幹細胞疾患で、血液、免疫、補体、幹細胞、癌などの領域で話題を提供し続けてきた。有病率は人口百万人あたり 1～5 人、年齢は 10 代から 80 代に及び性差はない。PIGA 遺伝子変異を後天的に獲得した造血幹細胞がクローン性に拡大して発症し、補体介在性血管内溶血および血栓症を呈し、基盤に再生不良性貧血（AA）類似の免疫機序による難治性造血障害を合わせ持つ。また稀に白血病を発生する。病態発現に人種差があり、造血不全や白血病は日本人、血栓症は欧米人に多い。死因には造血障害による出血や感染症、腎不全、血栓症があり、平均生存期間は約 32 年である。一世紀以上にわたる病態研究の中で、最近鮮明になった分子病態、そこから登場した治療、さらに未解決重要課題などを紹介し、後天性幹細胞疾患の科学的魅力をお届けしたい。

◆担当：江良 択実 教授（幹細胞誘導学）/ Prof. Takumi Era（Cell Modulation）

◆e-mail: tera@kumamoto-u.ac.jp

◆医学教務: iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp